

## カービュー マーケットウォッチ (2011年8月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役：松本 基）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

### 回復基調が続くも、前月比1ケタ増とペースはやや鈍化

11年 7月順位	11年 6月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	24,220
2	(2)	→	フィット	ホンダ	20,753
3	(3)	→	ヴィッツ	トヨタ	12,963
4	(9)	↑	デミオ	マツダ	10,464
5	(4)	↓	セレナ	日産	7,438
6	(7)	↑	ラクティス	トヨタ	6,321
7	(6)	↓	カロラ	トヨタ	6,242
8	(11)	↑	フリード	ホンダ	5,636
9	(5)	↓	マーチ	日産	5,156
10	(8)	↓	ノート	日産	4,565
11	(14)	↑	ヴォクシー	トヨタ	4,452
12	(13)	↑	パッソ	トヨタ	3,923
13	(16)	↑	ノア	トヨタ	3,688
14	(15)	↑	ジューク	日産	3,588
15	(12)	↓	キューブ	日産	3,195
16	(17)	↑	ソリオ	スズキ	3,186
17	(18)	↑	ウィッシュ	トヨタ	2,886
18	(20)	↑	ラフェスタ	日産	2,759
19	(19)	→	スイフト	スズキ	2,663
20	(10)	↓	ステップワゴン	ホンダ	2,651

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

## カービュー編集部独自の分析

### ■回復基調が続くも、前月比1ケタ増とペースはやや鈍化 3カ月連続増だった海外メーカー製輸入車もマイナスに

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した7月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は31万2835台で、前年同月比は74.4%と11カ月連続で前年を下回った（貨物車などを含む総新車販売台数は37万3058台／前年同月比76.7%）。前月比は106.2%と3カ月連続のプラスだが、5月30.6%増、6月47.0%増と比べると、やや回復ペースが鈍化したのが気になるところだ。

輸入車と軽乗用車を除く3／5ナンバーの国産乗用車（新型日産 マーチ分含む）は20万292台で、前年同月比は68.6%。前月比は11.6%増と軽乗用車を上回る伸びとなったが、前年同月比は昨年、9月末の新車購入補助金制度終了の影響で駆け込み需要が発生していたこともあり、下落率が大きくなっている。メーカーブランド合計では、昨年12月デビューの「CT200h」が月間販売目標1500台に対し販売台数2648台と好調なレクサスと、「ソリオ」が3186台と勢いが衰えないスズキ以外は前年割れで、トヨタ60.1%、ホンダ66.8%、スバル65.8%、三菱65.3%とこの4メーカーは全体の前年同月比を下回っている。ただトヨタとホンダは、前月比では全体を上回る伸びとなっているので、回復のペースは順調といえるだろう。

月間ランキングでは「トヨタ プリウス（α含む）」が2万4220台で2カ月連続トップ。αは5426台売れていて、単独でも9位にランクインする好調ぶりだ。2位の「ホンダ フィット」は、「ハイブリッド（シャトル含む）」が9516台とフィット全体の45.9%を占め、特にシャトルはハイブリッド車2332台、ガソリン車992台と圧倒的にハイブリッドが売れている。リッター30km（10・15モード燃費）を達成した13-SKYACTIVを新グレードに加えた「デミオ」も1万464台で前月9位から4位に大躍進し、低燃費で話題を集めるモデルが上位を占めた。

軽自動車は乗用車部門が9万7570台で、前年同月比86.2%（貨物車を含めた全体は13万1586台／前年同月比85.9%）と9カ月連続のマイナス。軽乗用車の前月比は5.7%増と1ケタ台で、回復ペースがやや鈍ってしまった。

輸入乗用車は海外メーカー製のみでは1万4000台で、前年同月比は92.4%と4カ月ぶりに前年を下回った（日本メーカー製を含めた輸入乗用車全体では2万129台、前年同月比95.5%）。海外メーカーブランド別乗用車ランキングは、VW（フォルクスワーゲン）が3336台で7カ月連続のトップだが、前年同月比は68.5%と急ブレーキ。2位は2321台でメルセデス・ベンツが1ランクアップし、前年同月比は131.5%と好調を堅持しているが、BMW（ミニを除く）は1932台、前年同月比72.2%で3位に後退と、ブランド間で勢いに差が出てきた。今年後半の動向に注目したい。

### ■ココも気になる！その1

マツダの新世代技術「スカイアクティブ」が好発進

低燃費を誇るハイブリッド車（HV）人気が止まらない。昨年、31万5669台という通称名別年間新記録でハイブリッド車初の年間トップとなった「トヨタ プリウス」を筆頭に、7月単月ではHVが4万936台と昨年7月以来の4万台超えとなり、軽自動車を除く新車販売比率は19.0%までアップした。また電気自動車（EV）の「日産 リーフ」と「三菱 アイ・ミーブ」も堅調で、7月はリーフ463台、アイ・ミーブ61台で、全乗用車中のEV比率は0.17%。1~7月累計ではリーフ5920台、アイ・ミーブ814台で、全乗用車中のEV比率は0.35%までになっている。

そんななか、HVやEV技術を使わずに低燃費をアピールしているのがマツダだ。6月30日に新世代技術“スカイアクティブ”を採用し、リッター30kmを達成した新グレードを「デミオ」に投入したのだが、7月はデミオ全体で1万464台と、7年4カ月ぶりに1万台超を実現。発売後1カ月で月間販売目標6000台の2倍超となる1万3500台の受注を集め、そのうちの70.0%が新グレード、13-SKYACTIVという人気ぶりだ。

新世代技術“スカイアクティブ”はエンジン、ミッション、ボディ、シャシーと多岐にわたるものだが、デミオには高圧縮比14.0を実現した1.3リッター直噴エンジンのスカイアクティブGのみを採用。それでHV並みのリッター30kmを達成しているわけで、今秋にマイナーチェンジ予定の「アクセラ」には2.0リッターのスカイアクティブGに加え、新開発の6速AT（スカイアクティブドライブ）が搭載されるというから楽しみだ。今後は、スカイアクティブのディーゼルエンジンを搭載する新型クロスオーバーSUV、CX-5を9月のフランクフルトショーで公開し来年発売、そして次期「アテンザ」がフルスカイアクティブ仕様としてデビューするはずだ。

## ■ココも気になる！その2

グループ全体で前年を上回る伸びとなったBMW

日本の輸入車市場の御三家といえば、VW、BMW、メルセデス・ベンツだが、それぞれ複数ブランドを持つグループ企業でもある。日本で販売されるブランドだけでも、VWグループはVW、アウディ、ベントレー、ランボルギーニ、BMWグループはBMW、ミニ、ロールスロイス、メルセデス・ベンツはそもそもダイムラーの一部門で、メルセデス・ベンツ（AMG含む）のほか、スマート、マイバッハを展開している。今年1~7月の輸入乗用車販売台数では、VWグループ3万9237台、BMWグループ2万5087台、ダイムラー（メルセデス・ベンツ）グループ1万8224台で、3グループ合計8万2548台は全輸入乗用車の76.1%にあたるほどだ。

この3グループの中で好調なのがBMWグループ。VWやダイムラー（メルセデス・ベンツ）がグループ合計の前年同期比で、98.1%、101.9%とほぼ昨年レベルなのに対し、107.5%と好調をキープしているのだ。これは世界市場でも同様で、今年上半期はグループ全体では83万3366台（前年同期比19.7%増）で過去最高を記録。ブランドごとではBMW68万9861台／前年同期比17.8%増、ミニ14万1913台／同29.8%増、ロールスロイス1592台／同64.1%増となっている。

日本市場の車名別 1～6 月上半期累計では、ミニが 6536 台（輸入乗用車ランキング 2 位）／前年同期比 119.3%、「BMW 5 シリーズ」4648 台（同 5 位）／同 190.6%、「BMW X1」2032 台（同 13 位）／同 211.5%と売れているが、「BMW 3 シリーズ」は 4562 台（同 6 位）／同 85.2%、「BMW 1 シリーズ」2059 台（同 12 位）／同 72.6%と苦戦気味。ただ 1 シリーズは 9 月にモデルチェンジし、年内には日本に導入される予定だけに、その後の伸びは期待できそうだ。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報・法務室 ([pr@carview.co.jp](mailto:pr@carview.co.jp))

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180

---